

大阪市政を変えて 維新政治の退場を

共産党市議団 決算議会前に懇談会

9月25日に開会する大阪市議会を前に、日本共産党大阪市議会議員団(瀬戸一正団長)が4日、大阪市役所内で市民団体などの懇談会を開き、約68人が参加しました。

国政政党でより政権寄りに

議会は前半(10月23日まで)に2014年度の公営・準公営会計決算を審議し、大阪市長選11月8日告示・22日投票(票)を以て、後半(11月24日から2016年1月15日)は同年度の一般会計決算を審議します。

市営交通や幼稚園民営化を狙う

開会あいさつで瀬戸団長は、前半の議会は橋下徹市長(大阪維新の会代

日本共産党大阪市議団が開いた懇談会(4日、大阪市役所内



無責任で許されぬ都構想再挑戦

瀬戸氏は、橋下氏らが大阪維新の会を母体とした国政政党をつくり、ダブル選では「大阪都」構想を再び公約に掲げようとしている問題に言及。

大阪市と議会を私物化する策動

戦争法案への反対世論が大きくなる中で、維新の党を丸ごと安倍政権の側に付けることに失敗した橋下氏が、党を割って、より安倍政権に近い政党を立ち上げる狙いがあると語り、「大阪市長選を国政への踏み台にする」とは許されないとしました。

山中智子幹事長が大阪市政をめぐる情勢や維新の会の動きについて報告。橋下氏が「大阪戦略調整会議(大阪会議)」に混乱を持ち込み、維新の党の分裂、ダブル選をめぐって発言をころころ変えてきたのは、「維新の会にとつて『大阪都』構想しか旗印がなく、それ

にすぎりつくためだ」と強調しました。山中氏は、橋下・維新の会が「大阪会議」などを維新の会のために利用し、府立大学と大阪市立大学との統合などの案件を無理やり持ち出そうとするなど、彼らが大阪市政と議会を私物化しようとしていることを批判しました。

一点共闘から新たな自治体建設へ

中山徹奈良女子大教授が講演

懇談会では奈良女子大学の中山徹教授(大阪自治体問題研究所理事長)が講演しました。

中山氏は、「大阪都」構想は、大阪市を消滅させて権限・財源を府に吸い上げ、カジノ誘致や大型公共事業を進めることが狙いで、その実態が市

民に知られる中で住民投票で否決されたと指摘。同時に橋下・維新の会が、「選挙で勝てば何でもできる」という異常な民主主義観に立ち、大阪市の存廃という重大問題を、短期間に正確な情報もない中で市民に決めさせようとしたことを批判

しました。中山氏は、橋下・維新の会による市民分断を乗り越え、住民投票で自民党から日本共産党まで幅広い共闘が成立した背景には、極端な市民サービス切り捨てなど、新自由主義的「改革」に反対した市民レベルの共同があ

ったからだ」と強調しました。中山氏は、「新たに誕生した共闘を一過性のものにせず、新自由主義から地域を守り、市民生活と地域経済を好転させる持続的な共同に発展させ、そこに立脚した自治体をつくるのが求められているのではないかと問題提起しました。